

本邦におけるオンライン診療の普及を 阻害する因子の検討

患者・健常者
を対象としたアンケート
結果要約

実施概要 | 1

- 背景および目的

- これまで医療は対面診療でなされることが原則であったが、2018年に初めて、自宅などから通信情報機器を介して医師の診察を受ける「**オンライン診療**」の実施が認められた。以降、通信・情報領域の発展やCOVID-19の蔓延により、オンライン診療は徐々に浸透したが、**本邦においては未だ期待されるほどは行われていない**。他方、今後の高齢化社会において、医療従事者が減少することが予測されており、この点ではオンライン診療の活用が今後の医療を支える可能性が指摘されている。
- 本邦でオンライン診療が浸透しない要因を探索するため、患者あるいは患者家族（本調査では現在3か月以内の頻度で定期通院中である方と定義）、健常者（本調査では現在定期通院中でない方と定義）を対象に、現在のオンライン診療のイメージを調査する。

- 実施期間

- 対象者の抽出のためのスクリーニング調査 | 2023年9月25日～同年10月8日
- 本調査 | 2023年10月19日～同年11月2日

実施概要 | 2

• 実施方法

- アイブリッジ株式会社のもつアンケートパネルであるFreeasyコホート内において、本邦の人口分布に合わせた形で性別・年齢毎に割付を行ったうえで、スクリーニング調査を実施した。ただし、70歳代以上の女性については本コホートへの参加が少なく、人口分布よりも少ない割付となった。
- スクリーニング調査の回答により、患者・患者家族/健常者の分類、およびオンライン診療の経験有無の分類により4群に分けた。**オンライン診療経験あり群は全例を抽出**し本調査の対象とした。**オンライン診療経験なし群は**、対応するオンライン診療経験あり群の年齢・性別分布に合わせて**層別化無作為抽出**を行い、患者・患者家族群計3,000例、健常者群計3,000例（総計6,000例）を本調査の対象とした。

	オンライン診療経験		計
	あり	なし	
患者・患者家族	1,478 (抽出率 100%)	1,522 (抽出率 9%)	3,000
健常者	478 (抽出率 100%)	2,522 (抽出率 13%)	3,000

実施概要 | 3

- 回答率

	オンライン診療経験		計
	あり	なし	
患者・患者家族	1,312/1,478 (回答率 88.8%)	1,281/1,522 (回答率 84.2%)	2,593/3,000 (回答率 86.4%)
健常者	404/478 (回答率 84.5%)	2,226/2,522 (回答率 88.3%)	2,630/3,000 (回答率 87.7%)

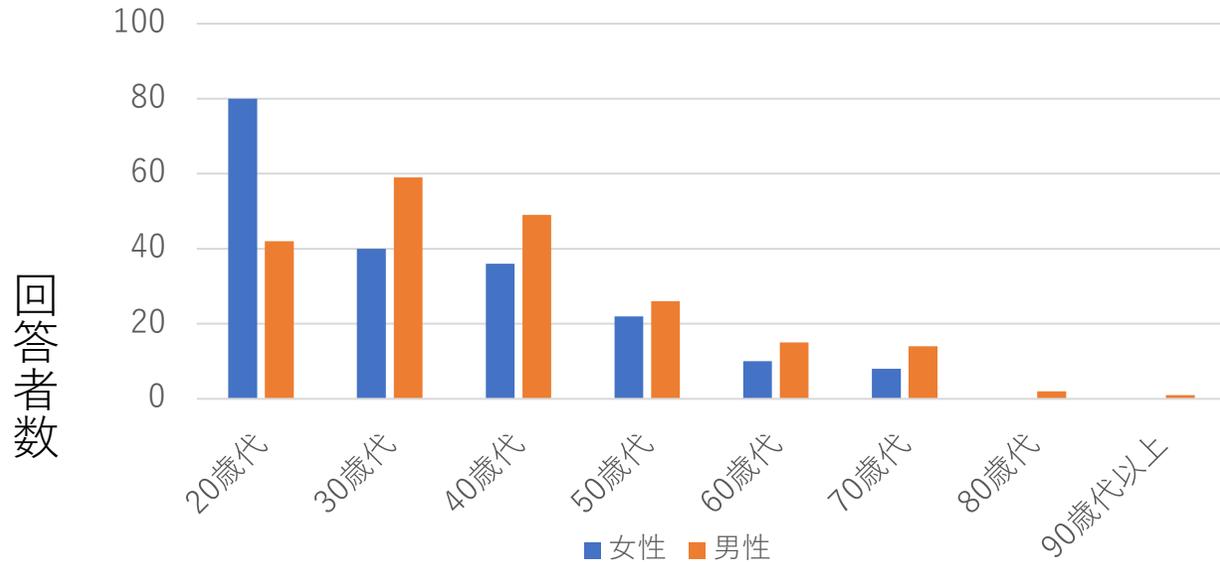
- 統計解析方法

- オンライン診療経験の有無による2群間、あるいは患者・患者家族（定期通院先あり）群と健常者（定期通院先なし）群の2群間でカテゴリー変数については **χ^2 乗検定**、順序変数については **マン・ホイットニーのU検定**（ウィルコクソンの順位和検定）を実施した。
- 同一集団においての回答内容の差をみる場合には、対応のある検定として **McNemar検定**を実施した。

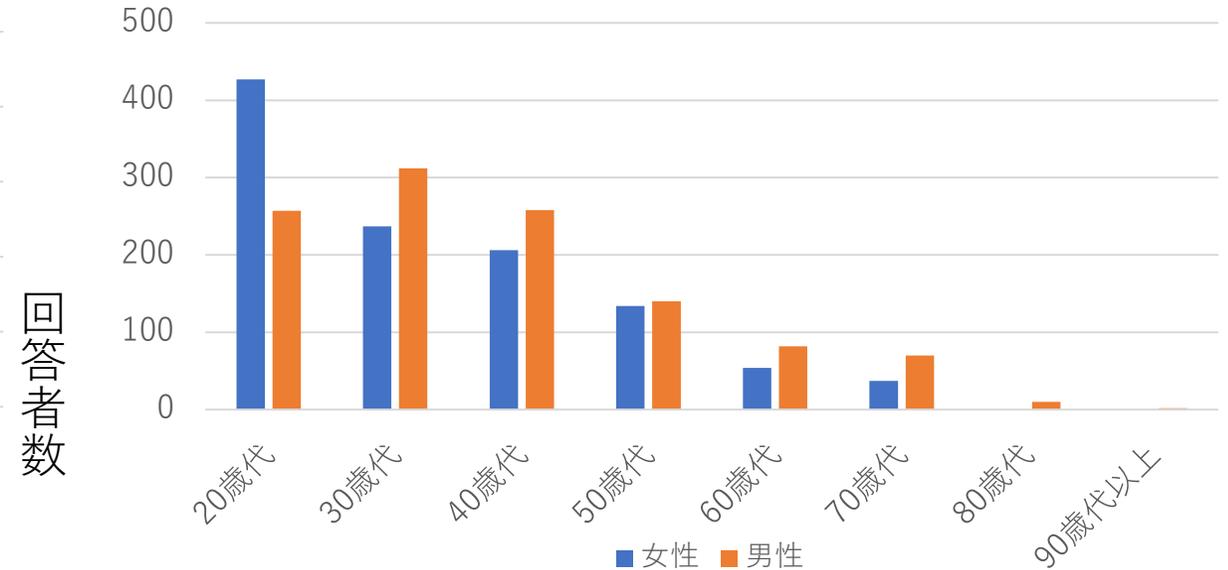
回答者の背景

結果 | 回答者の性別・年齢分布 | 1 健常者群（定期通院先なし）

オンライン診療経験あり



オンライン診療経験なし



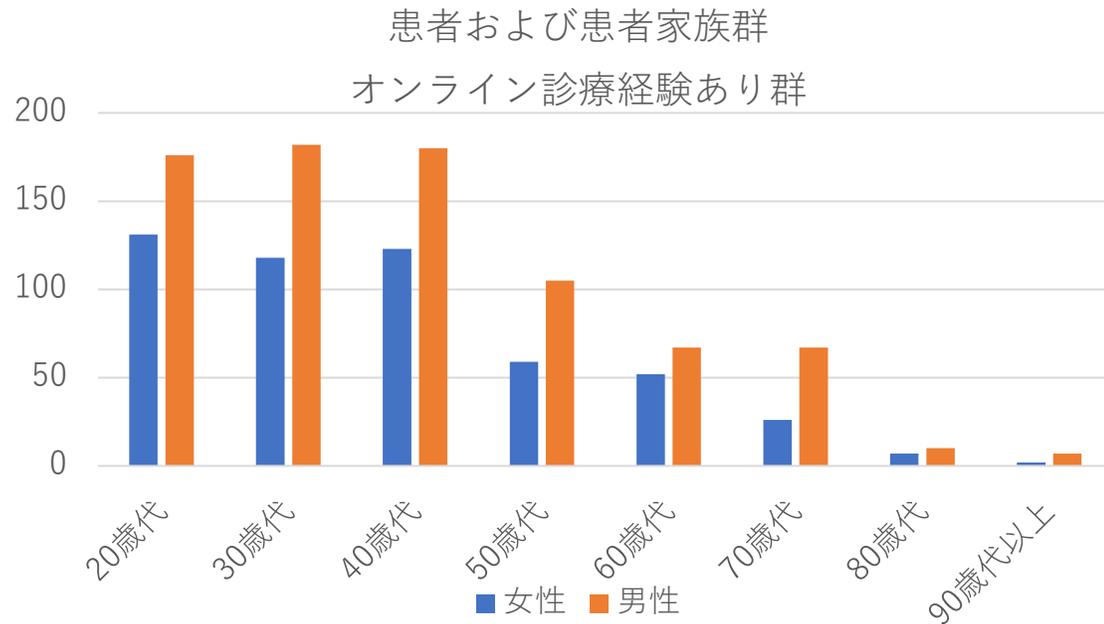
	経験あり	経験なし	Total
60歳未満	354 (87.6%)	1,971 (88.5%)	2,325 (88.4%)
60歳以上	50 (12.4%)	255 (11.5%)	305 (11.6%)

対象者選定の時点で、オンライン診療経験あり群となし群で性別・年齢分布を合わせた。回答率も85%程度と高いため、回答者の性別・年齢分布も近いものとなっている。

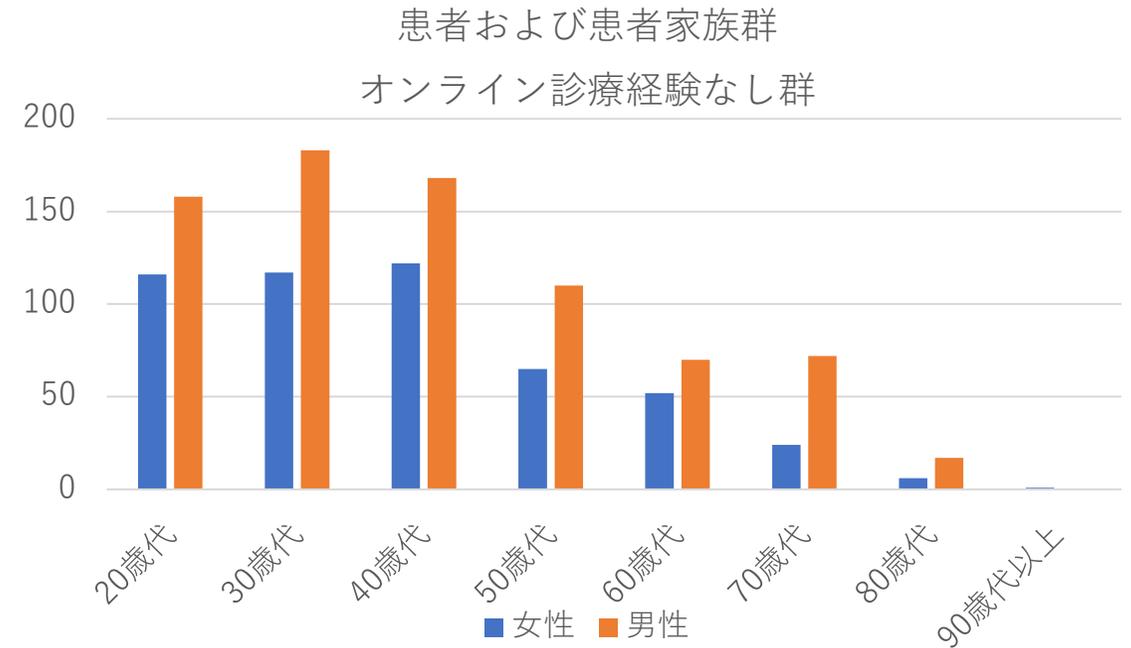
結果 | 回答者の性別・年齢分布 | 2

患者および患者家族群（定期通院先あり）

回答者数



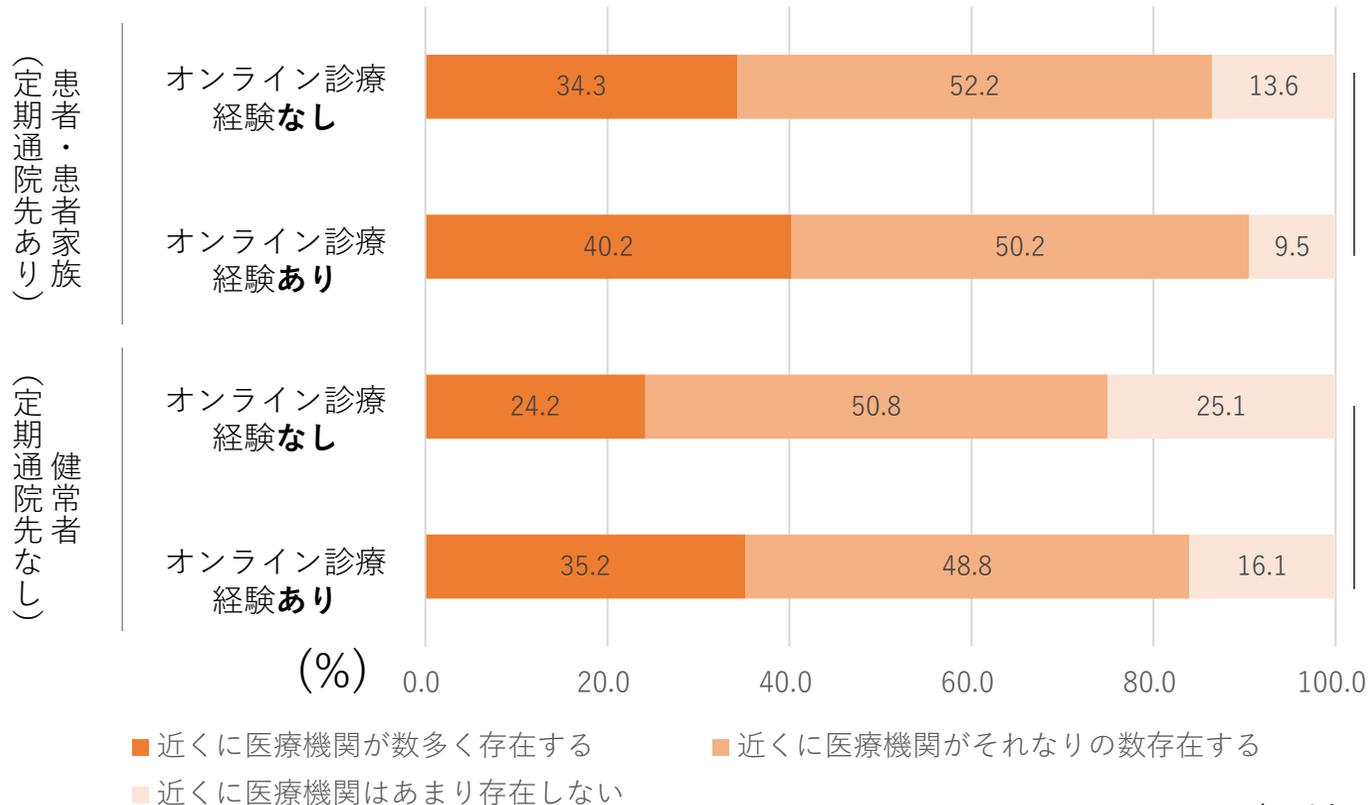
回答者数



	経験あり	経験なし	Total
60歳未満	1,074 (81.7%)	1,039 (81.1%)	2,113 (81.5%)
60歳以上	238 (18.1%)	242 (18.9%)	480 (18.5%)

対象者選定の時点で、オンライン診療経験あり群となし群で性別・年齢分布を合わせた。回答率も85%程度と高いため、回答者の性別・年齢分布も近いものとなっている。

結果 | 近傍の医療機関数



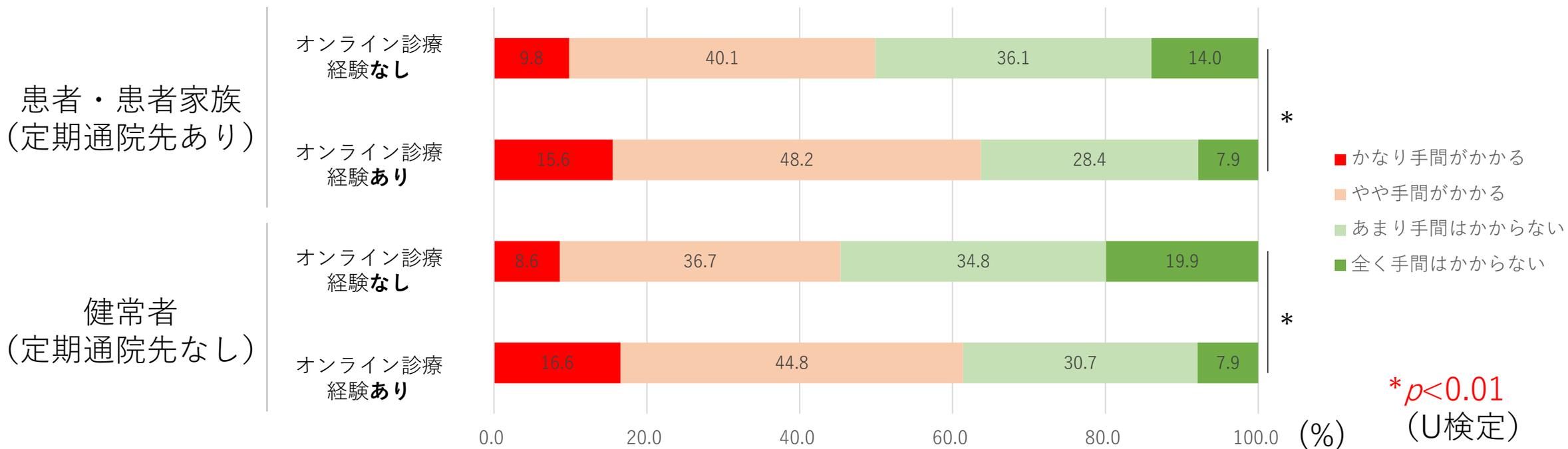
	経験	医療機関 多い	医療機関 少ない	Total
患者	なし	1107 (86.4%)	174 (13.6%)	1281 (100%)
	あり	1187 (90.5%)	125 (9.5%)	1312 (100%)
健常者	なし	1668 (74.9%)	558 (25.1%)	2226 (100%)
	あり	339 (83.9%)	65 (16.1%)	404 (100%)

「近くに医療機関はあまり存在しない」と回答した場合は「医療機関少ない」群、「近くに医療機関が数多く/それなりの数存在する」と回答した場合は「医療機関多い」群に分類した。

* $p < 0.01$ (U検定)

定期通院先あり群/なし群両方において、オンライン診療経験がある群の方が、むしろ近くに医療機関が数多く存在すると回答した割合が多かった。

結果 | 通院の手間



定期通院先あり群/なし群両方において、オンライン診療経験がある群の方が、通院に「かなり手間がかかる」「やや手間がかかる」と回答した割合が多かった。

結果 | 通院の手間 | 層別化

手間に感じている割合 (%)

年齢による層別化

	60歳未満	60歳以上	p value
患者			
経験あり	66.9	49.6	<0.01
経験なし	54.0	32.2	<0.01
健常者			
経験あり	62.7	52.0	0.15
経験なし	46.5	36.1	<0.01

近傍の医療機関数による層別化

	医療機関		p value
	少ない	多い	
患者			
経験あり	63.1	69.6	0.15
経験なし	48.3	59.8	0.01
健常者			
経験あり	61.7	60.0	0.80
経験なし	49.0	34.3	<0.01

60歳未満の群の方が、通院を手間だと感じている割合は多かった。

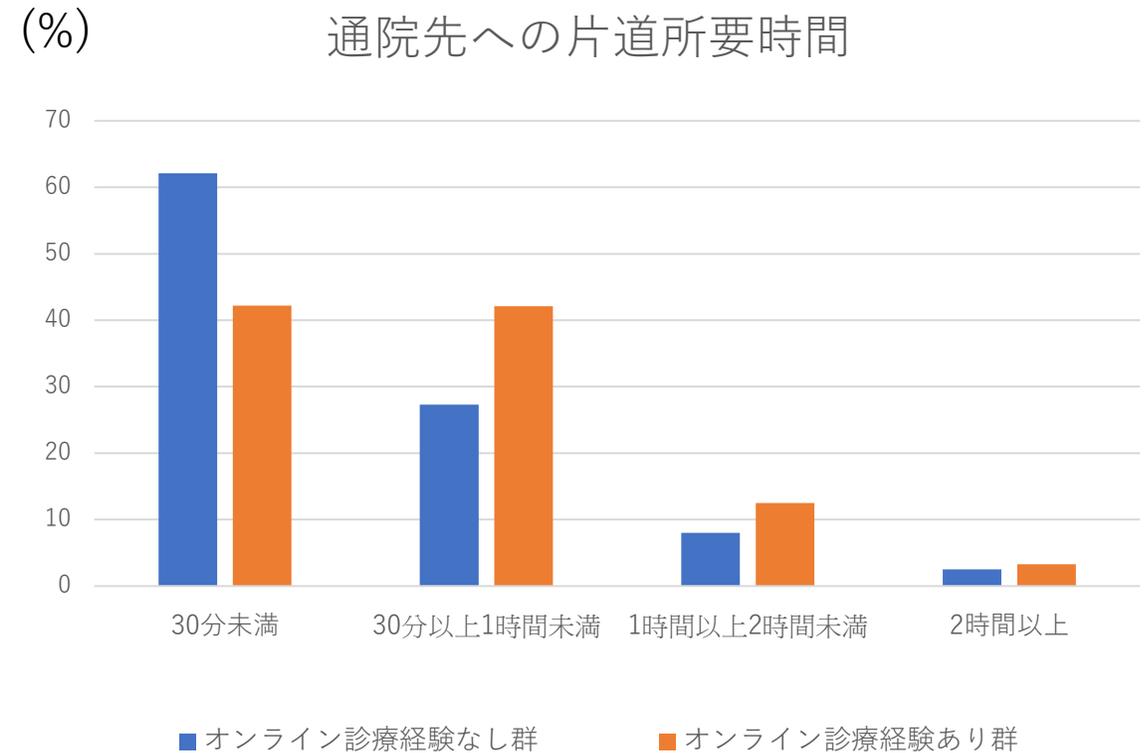
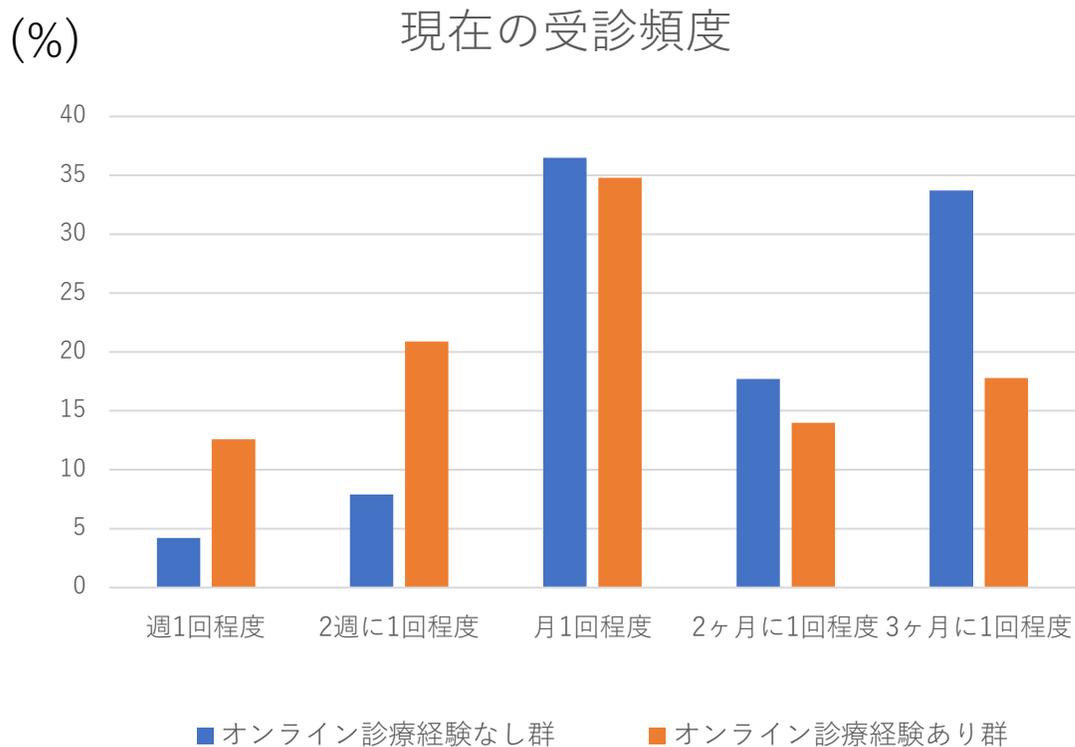
結果 | 患者および患者家族群 | 1

患者としての回答か/患者家族としての回答か

	オンライン診療経験	
	なし	あり
患者としての回答 (自分自身についての回答)	1,074 (83.8%)	1,193 (90.9%)
患者家族としての回答 (受診に付き添っている方についての回答)	207 (16.2%)	119 (9.1%)

内訳	オンライン診療経験	
	なし	あり
受診している家族の年齢カテゴリー		
未就学児 (7歳未満)	39 (18.8%)	5 (4.2%)
学童 (7歳以上18歳未満)	21 (10.1%)	15 (12.6%)
成人 (18歳以上65歳未満)	68 (32.9%)	35 (29.4%)
高齢者 (65歳以上)	79 (38.2%)	64 (53.8%)

結果 | 患者および患者家族群 | 2 受診頻度および片道所要時間

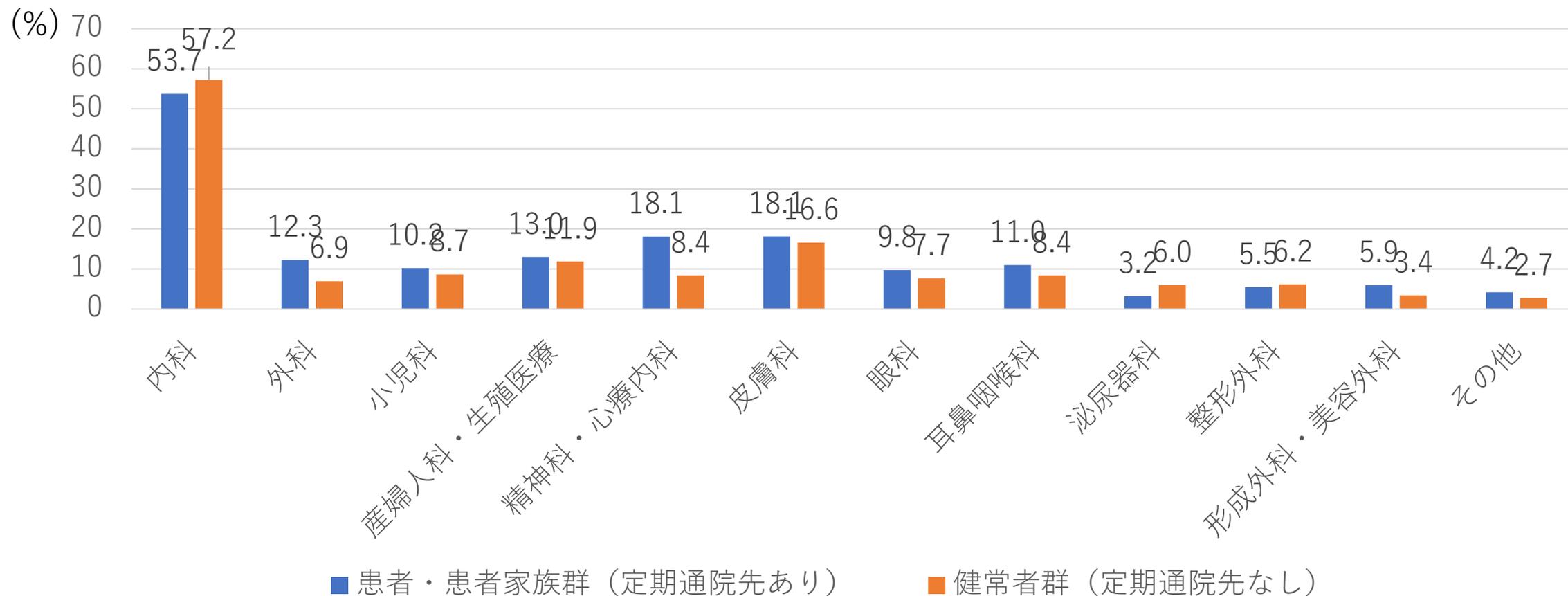


オンライン診療経験あり群の方が、なし群よりも受診頻度は多かった。
オンライン診療経験なし群の方が、通院先への片道所要時間は短かった。

オンライン診療経験あり群における
オンライン診療の利用状況や満足度

結果 | オンライン診療経験あり群 | 1

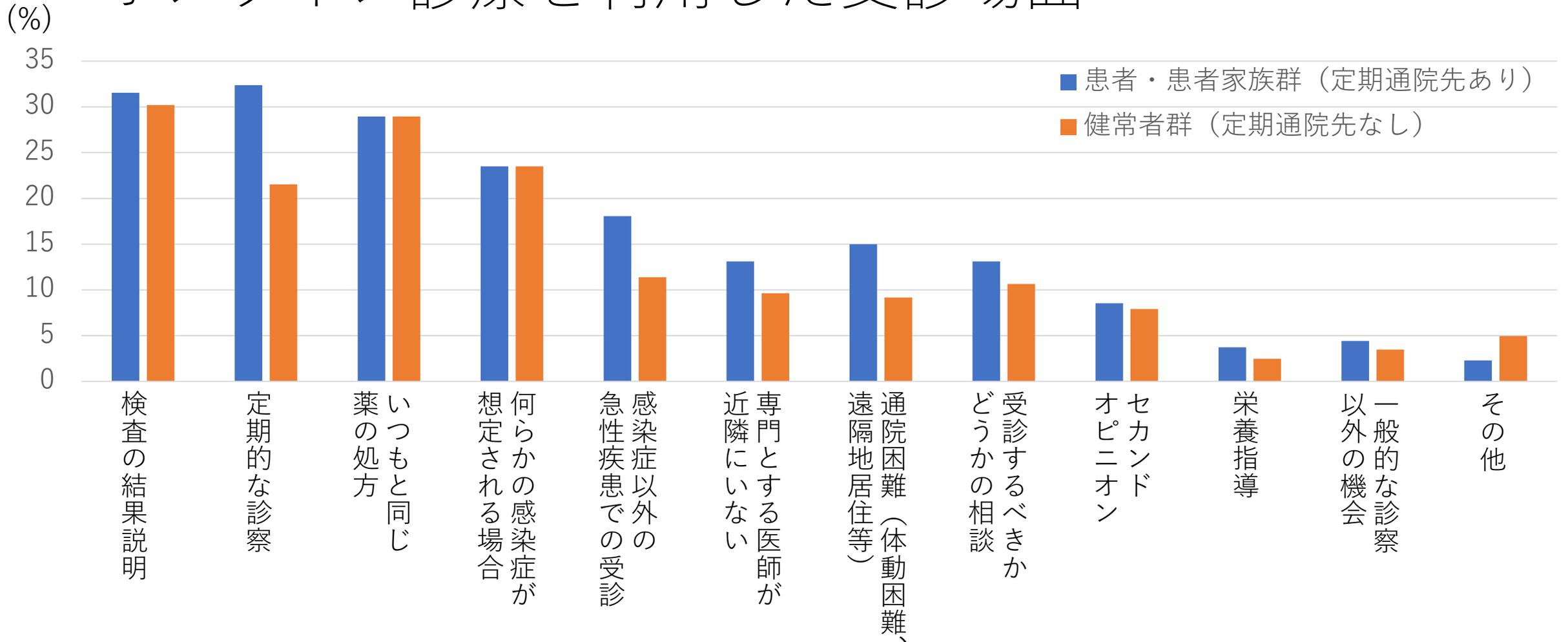
オンライン診療を利用した受診科



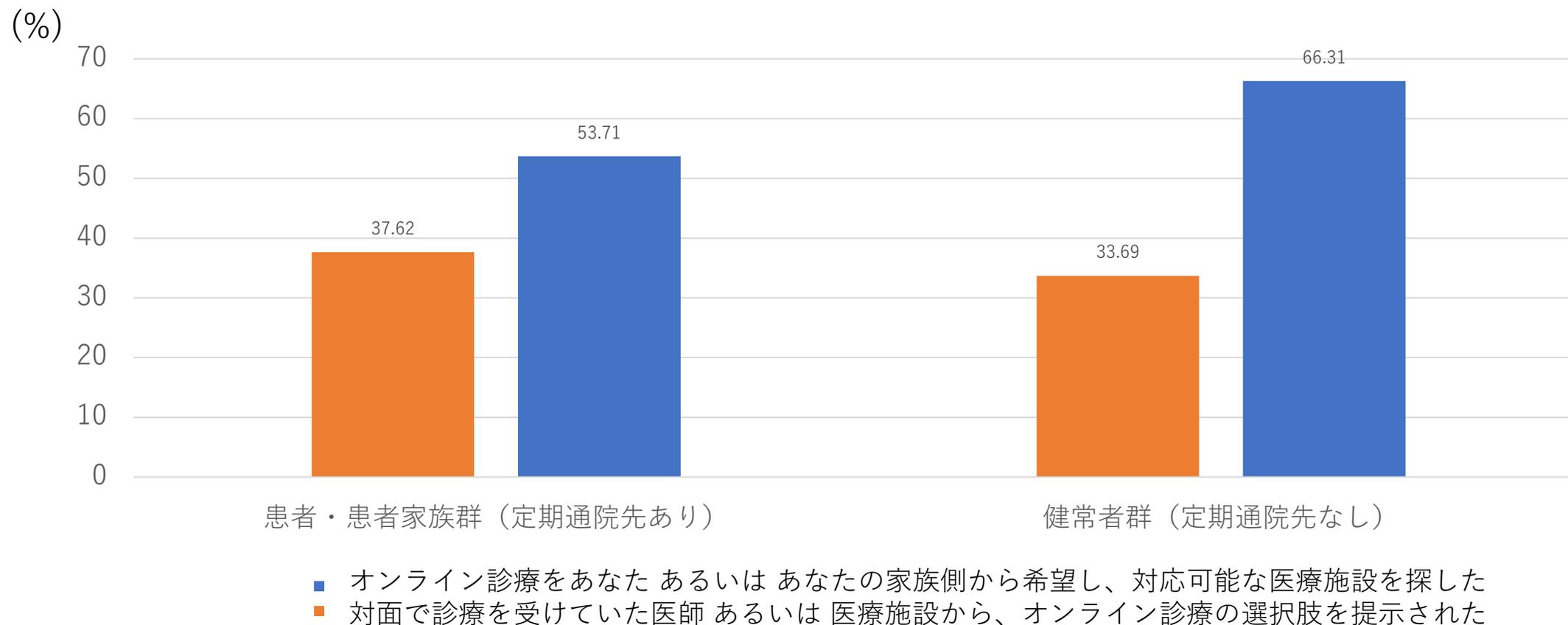
半数以上が内科でのオンライン診療の利用であった。

結果 | オンライン診療経験あり群 | 2

オンライン診療を利用した受診場面



結果 | オンライン診療経験あり群 | 3 オンライン診療を利用したきっかけ

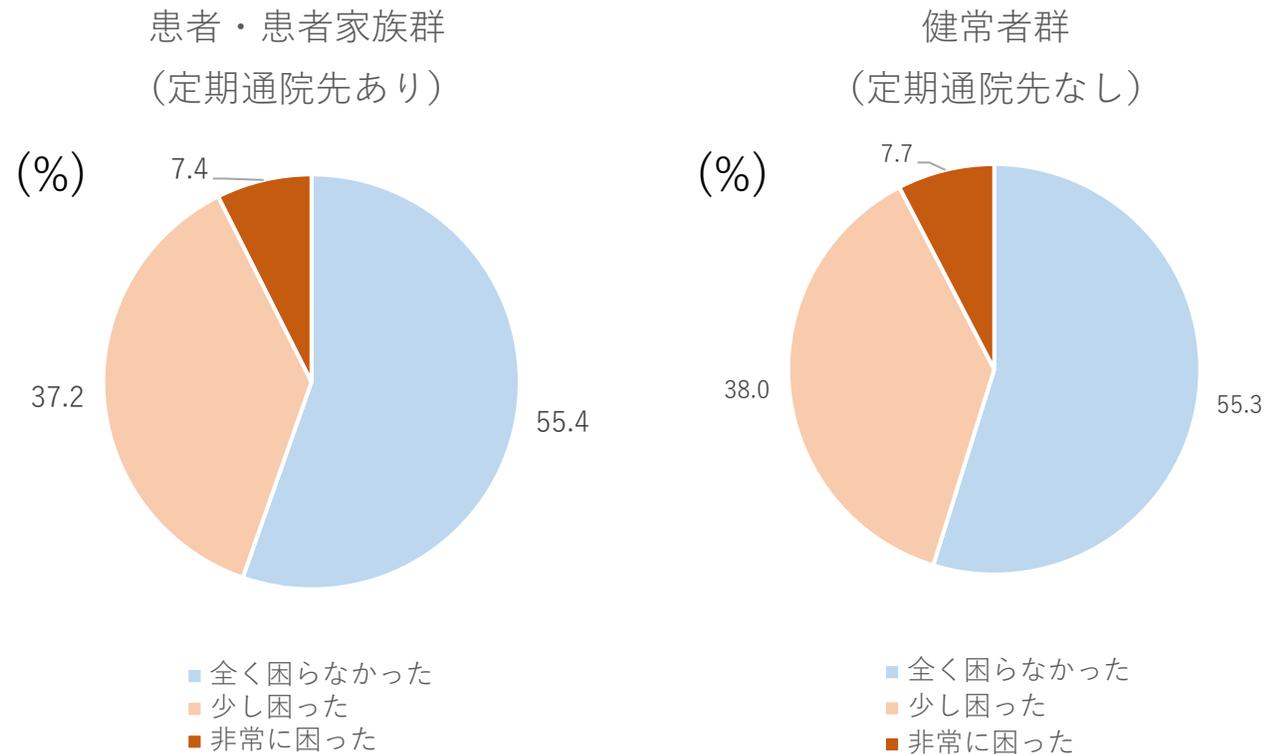


医師あるいは医療施設から提案を受け利用した場合よりも、患者側から提案して利用した場合の方が多かった。

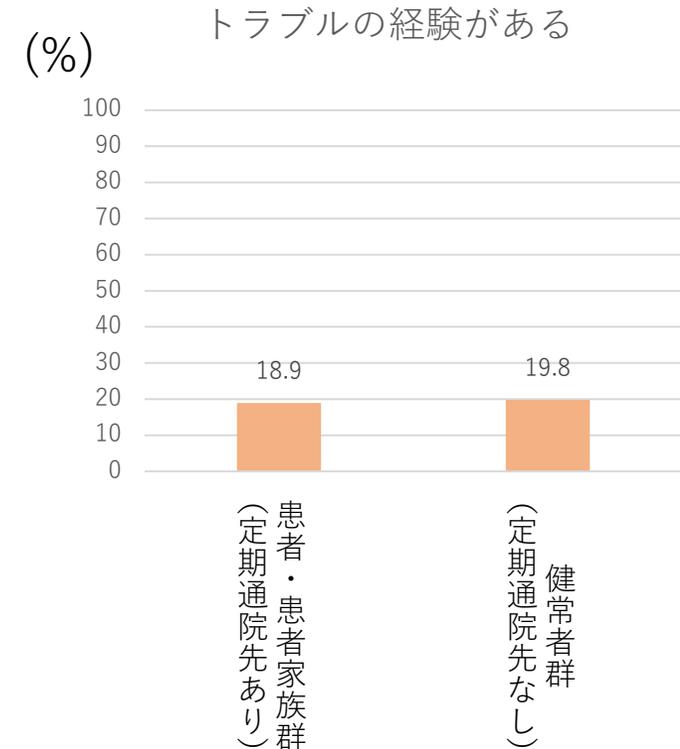
結果 | オンライン診療経験あり群 | 4

オンライン診療における困った経験

ソフトウェアやアプリのダウンロードや操作において



繋がらない/回線が途切れるなど通信環境において



ソフトウェアやアプリのダウンロードおよび操作について、半数以上において全く困難を感じていない一方で、7%程度においては非常に困った経験があった。通信環境においてトラブルの経験があったのは20%弱だった。

結果 | オンライン診療経験あり群 | 5

オンライン診療における困った経験 | 年齢層別化

ソフトウェアやアプリのダウンロードや操作において

	患者 (%)		p value
	60歳未満	60歳以上	
全く困らなかった	54.84	52.1	0.70
少し困った	37.43	40.34	-
非常に困った	7.73	7.56	-

	健常者 (%)		p value
	60歳未満	60歳以上	
全く困らなかった	59.32	54	0.51
少し困った	34.75	36	-
非常に困った	5.93	10	-

繋がらない/回線が途切れるなど通信環境において

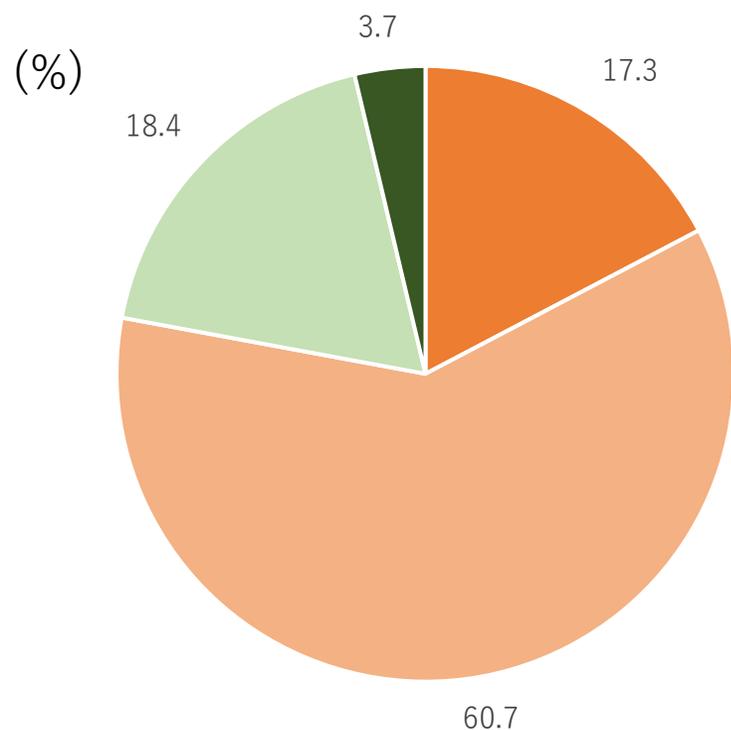
	患者 (%)		p value
	60歳未満	60歳以上	
トラブルの経験はある			
患者	20.76	15.55	0.07
健常者	15.25	22.00	0.22

いずれも年齢による有意差は見られなかった。

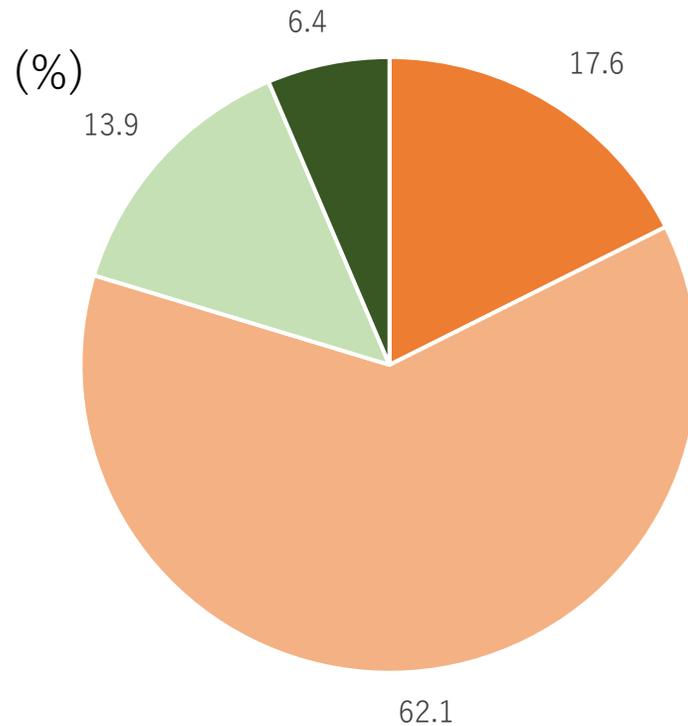
結果 | オンライン診療経験あり群 | 6

オンライン診療の満足度

患者・患者家族群（定期通院先あり）



健常者群（定期通院先なし）



- とても満足している
- だいたい満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

「とても満足している」「だいたい満足している」を選択したのが、両群ともに80%弱、「あまり満足していない」「全く満足していない」を選択したのが、20%強であった。

結果 | オンライン診療経験あり群 | 7

オンライン診療の満足度 | 年齢層別化

	患者 (%)		p value
	60歳未満	60歳以上	
とても満足している	17.7	15.6	0.56
だいたい満足している	60.5	61.3	
あまり満足していない	18.4	18.1	
全く満足していない	3.4	5.0	

	健常者 (%)		p value
	60歳未満	60歳以上	
とても満足している	18.6	10.0	<0.01
だいたい満足している	62.7	58.0	
あまり満足していない	13.8	14.0	
全く満足していない	4.8	18.0	

	60歳未満	60歳以上	p value
満足	-	-	-
患者	78.2	76.9	0.66
健常者	81.4	68.0	0.03

「とても満足している」「だいたい満足している」と回答した場合、満足と分類した。

健常者では60歳未満と60歳以上で満足度が有意に異なり、60歳未満の方が満足と回答した割合が多かった。

結果 | オンライン診療経験あり群 | 7

オンライン診療の満足度 | 近傍の医療機関数層別化

	患者 (%)		p value
	医療機関 多い	医療機関 少ない	
とても満足している	17.4	16.0	<0.01
だいたい満足している	61.3	54.4	
あまり満足していない	18.2	20.0	
全く満足していない	3.0	9.6	

	健常者 (%)		p value
	医療機関 多い	医療機関 少ない	
とても満足している	19.5	7.7	<0.01
だいたい満足している	65.2	46.2	
あまり満足していない	10.9	29.2	
全く満足していない	4.4	16.9	

	医療機関 多い	医療機関 少ない	p value
満足	-	-	-
患者	78.8	70.4	0.03
健常者	84.7	53.9	<0.01

「とても満足している」「だいたい満足している」と回答した場合、満足と分類した。

患者・健常者ともに、近傍の医療機関数で満足度は有意に異なり、近傍の医療機関数が多い群の方が、満足度は高かった。特に健常者群で医療機関数が少ない場合、満足と回答した割合は54%程度にとどまった。

結果 | 「満足度」と「通院の手間の感じ方」

患者群

患者群 N=1,312	手間	
	感じない N=476	感じる N=836
とても満足している	15.6	18.3
だいたい満足している	53.4	64.8
あまり満足していない	24.6	14.8
全く満足していない	6.5	2.0
	68.9	83.1
	31.1	16.9

$p < 0.01$ (U検定)

健常者群

健常者群 N=404	手間	
	感じない N=156	感じる N=248
とても満足している	14.1	19.8
だいたい満足している	53.9	67.3
あまり満足していない	20.5	9.7
全く満足していない	11.5	3.2
	67.9	87.1
	32.1	12.9

$p < 0.01$ (U検定)

通院には手間がかかると感じている群の方が、オンライン診療に対しての満足度は高かった。

結果 | 「満足度」と「負担感」

※負担感についての詳細は後述

患者群 (N=1,312)	時間的負担は		身体的負担は		精神的負担は		金銭的負担は	
	オンライン診療の方が		オンライン診療の方が		オンライン診療の方が		オンライン診療の方が	
	大きい N=326	小さい N=986	大きい N=421	小さい N=891	大きい N=577	小さい N=735	大きい N=641	小さい N=671
とても満足している	10.1	19.7	8.3	21.6	9.9	23.1	13.0	21.5
だいたい満足している	54.9	62.6	57.7	62.1	57.2	63.4	60.7	60.7
あまり満足していない	26.7	15.6	27.3	14.1	26.7	11.8	21.5	15.4
全く満足していない	8.3	2.1	6.7	2.2	6.2	1.6	4.8	2.5
	$p < 0.01$		$p < 0.01$		$p < 0.01$		$p < 0.01$	

健常者群 (N=404)	時間的負担は		身体的負担は		精神的負担は		金銭的負担は	
	オンライン診療の方が		オンライン診療の方が		オンライン診療の方が		オンライン診療の方が	
	大きい N=97	小さい N=307	大きい N=94	小さい N=310	大きい N=152	小さい N=252	大きい N=232	小さい N=172
とても満足している	8.3	20.5	8.5	20.3	5.9	24.6	9.9	27.9
だいたい満足している	48.5	66.5	48.9	66.1	58.6	64.3	65.5	57.6
あまり満足していない	21.7	11.4	22.3	11.3	21.1	9.5	15.5	11.6
全く満足していない	21.7	1.6	20.2	2.3	14.5	1.6	9.1	2.9
	$p < 0.01$		$p < 0.01$		$p < 0.01$		$p < 0.01$	

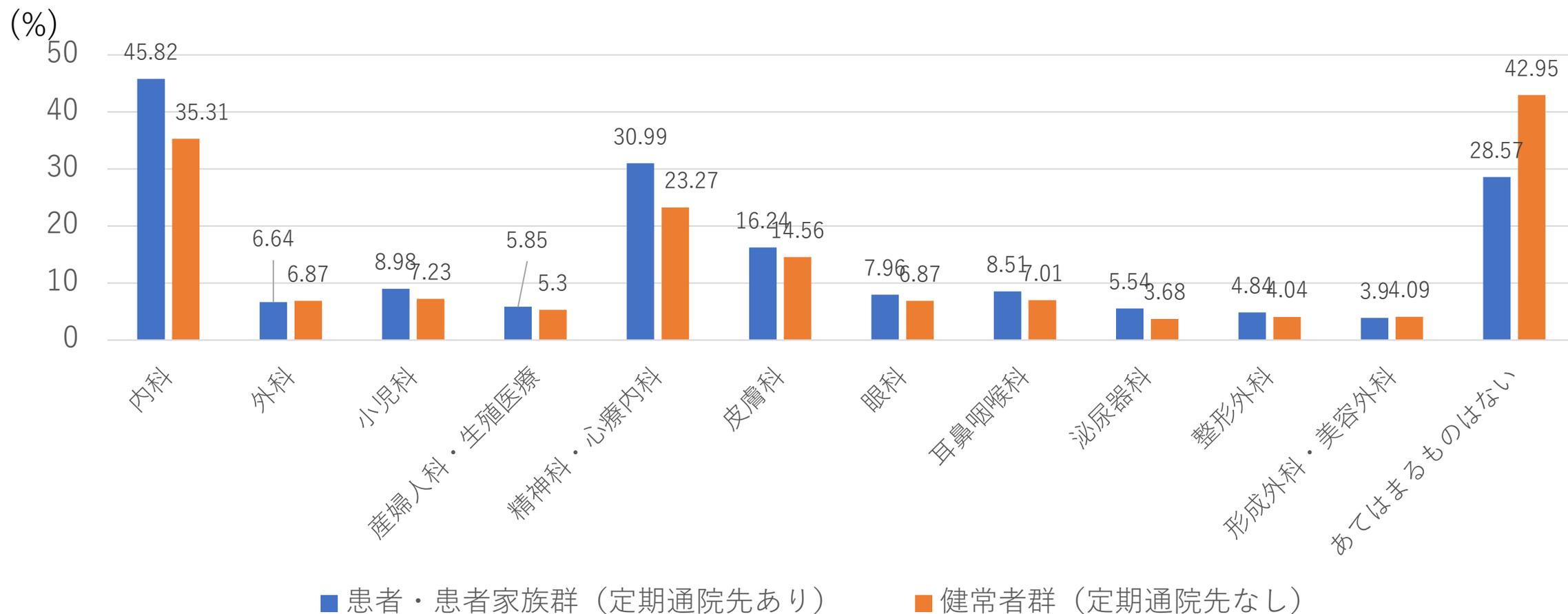
いずれもU検定

オンライン診療において負担の軽減を感じている群の方が、オンライン診療に対しての満足度は高かった。

オンライン診療経験なし群における
オンライン診療についての利用予想

結果 | オンライン診療経験なし群 | 1

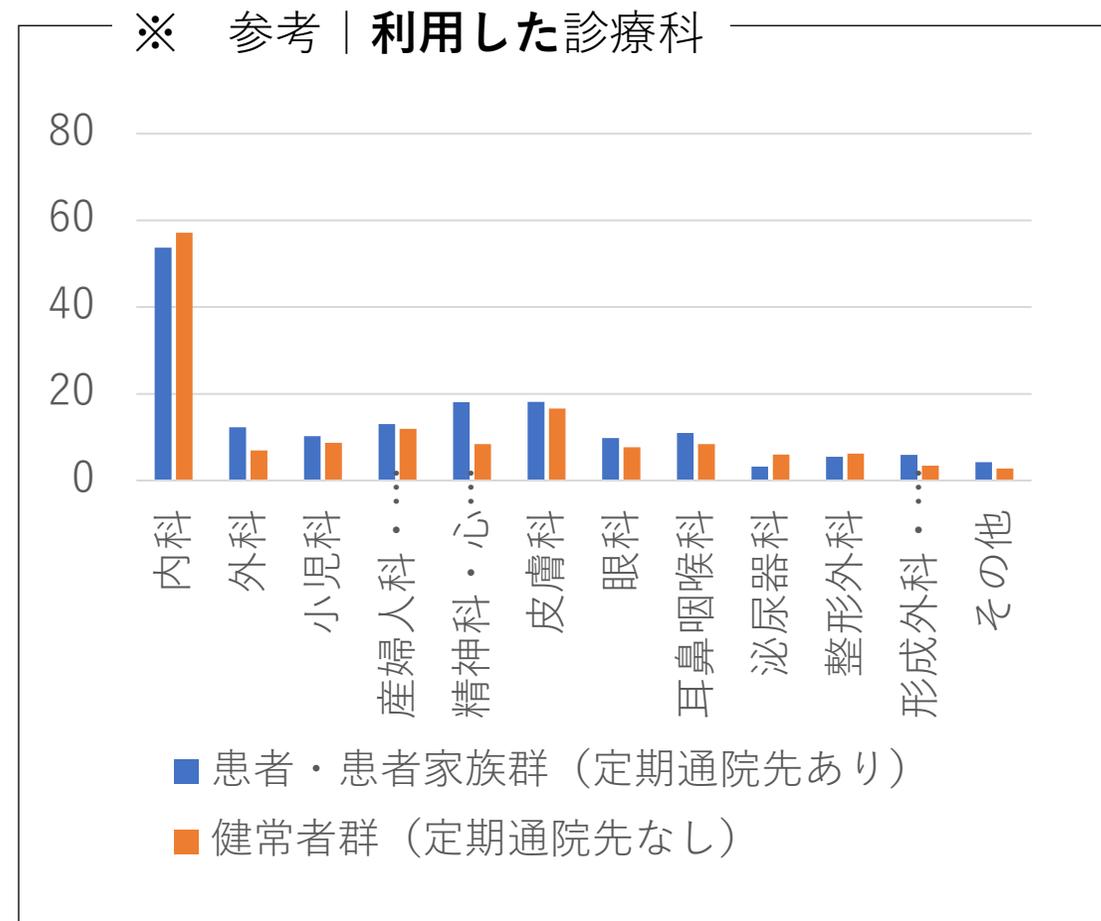
オンライン診療を利用してよいと思う診療科



内科、精神科・心療内科は選択率が高かった。一方で、あてはまるものはないという回答も比較的多かった。

結果 | オンライン診療経験なし群 | 1

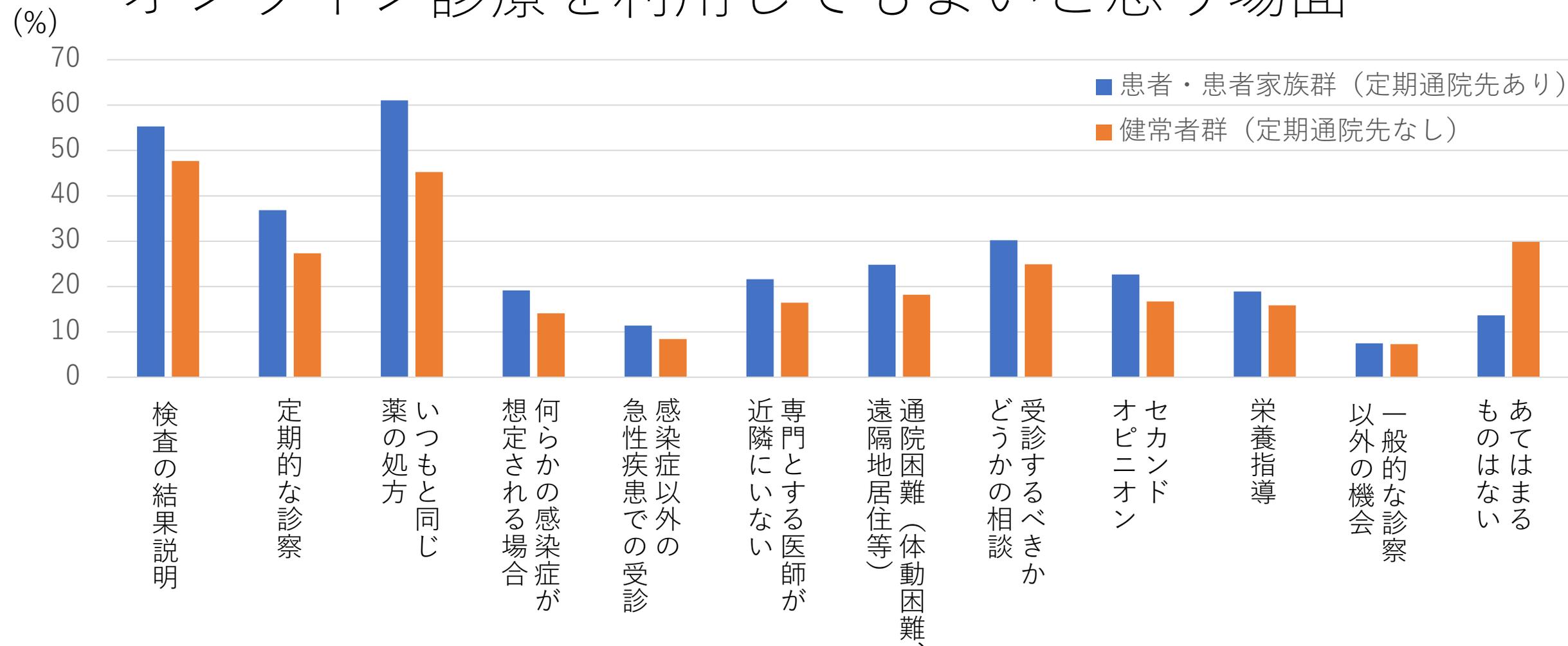
オンライン診療を利用してよいと思う診療科



内科、精神科・心療内科は選択率が高かった。一方で、あてはまるものはないという回答も比較的多かった。

結果 | オンライン診療経験なし群 | 2

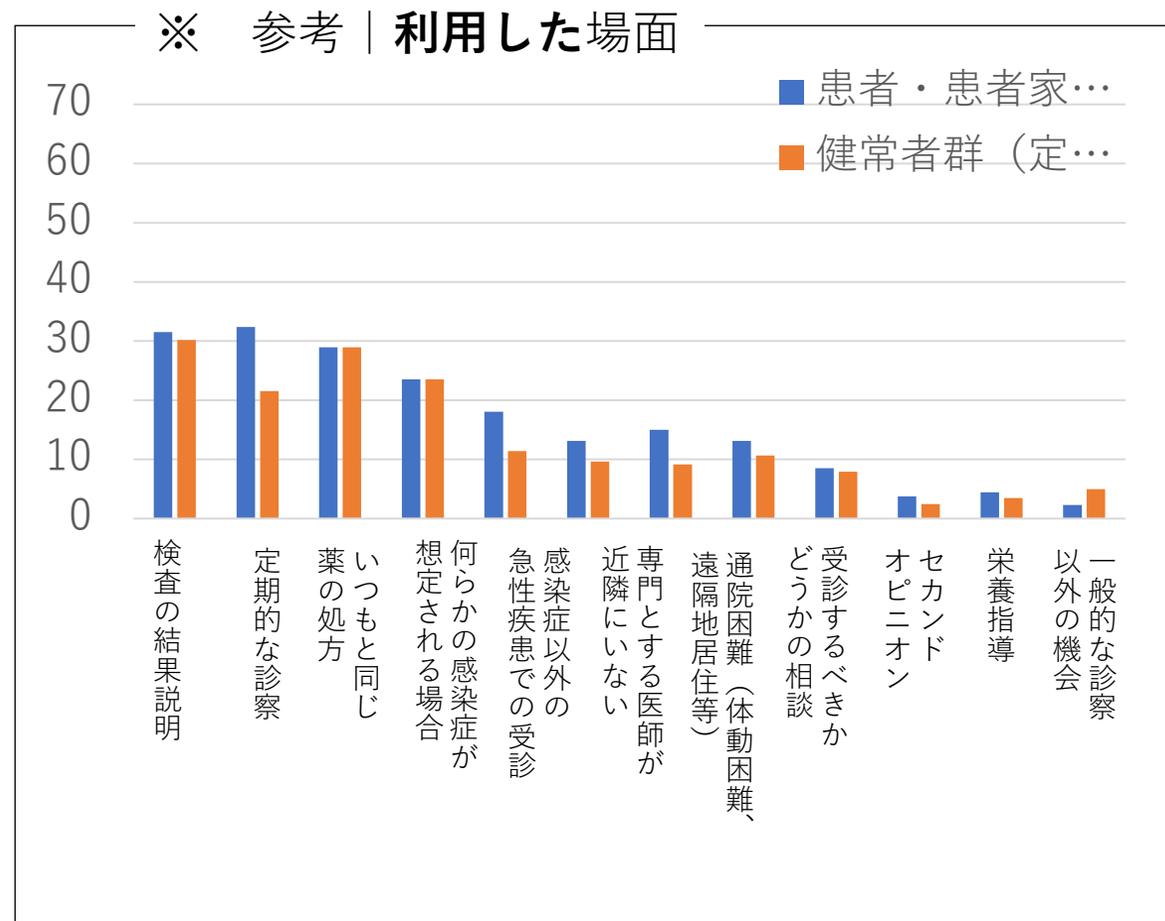
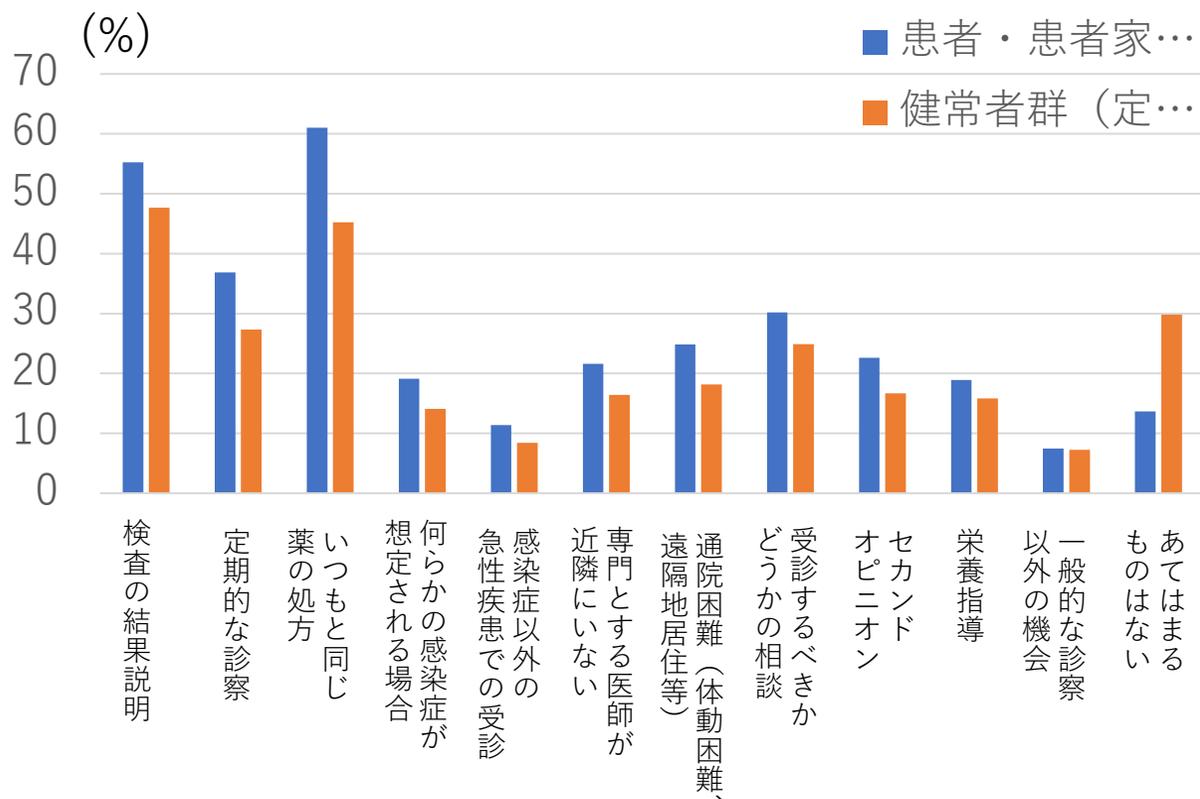
オンライン診療を利用してよいと思う場面



「検査の結果説明」、「いつもと同じ薬の処方」、「定期的な診察」、「受診するべきかどうかの相談」が比較的選択率が高かった。

結果 | オンライン診療経験なし群 | 2

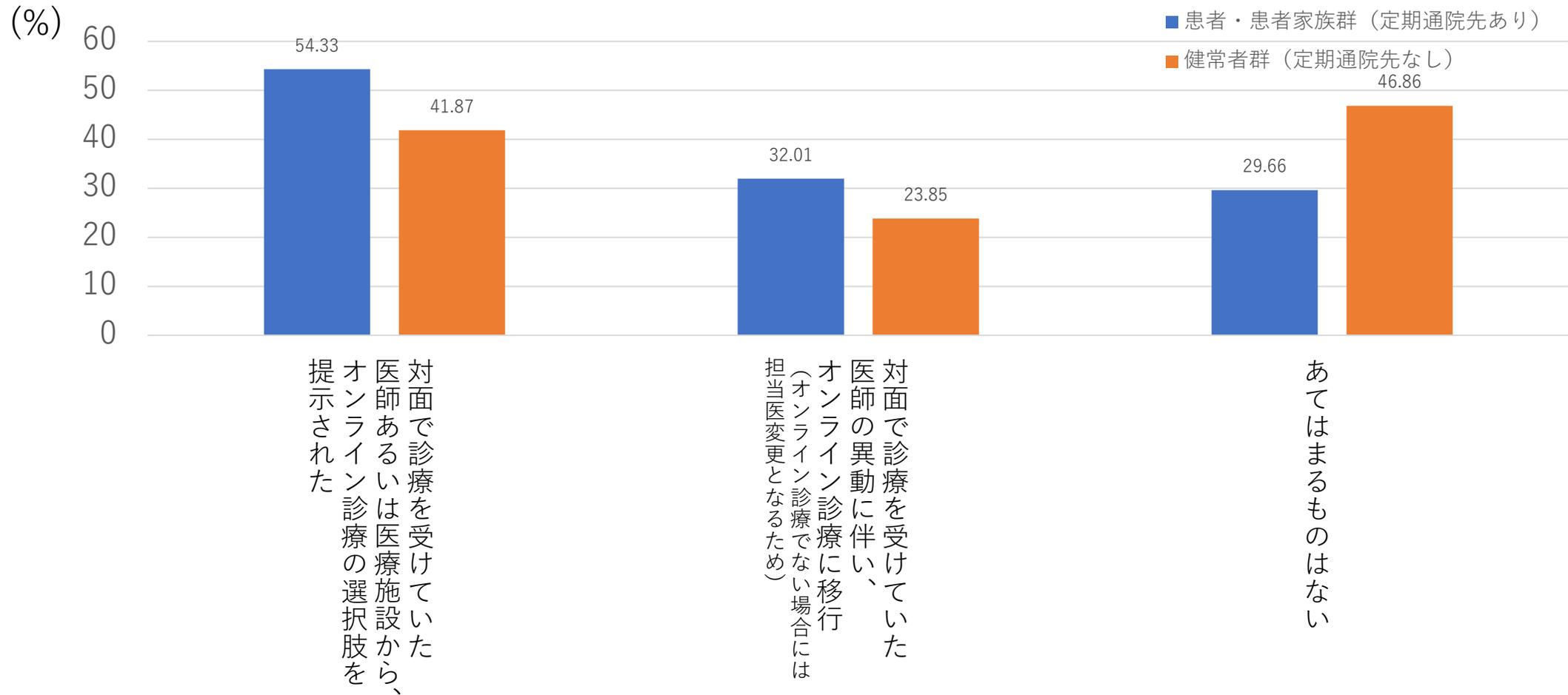
オンライン診療を利用してよいと思う場面



「検査の結果説明」、「いつもと同じ薬の処方」、「定期的な診察」、「受診するべきかどうかの相談」が比較的選択率が高かった。

結果 | オンライン診療経験なし群 | 3

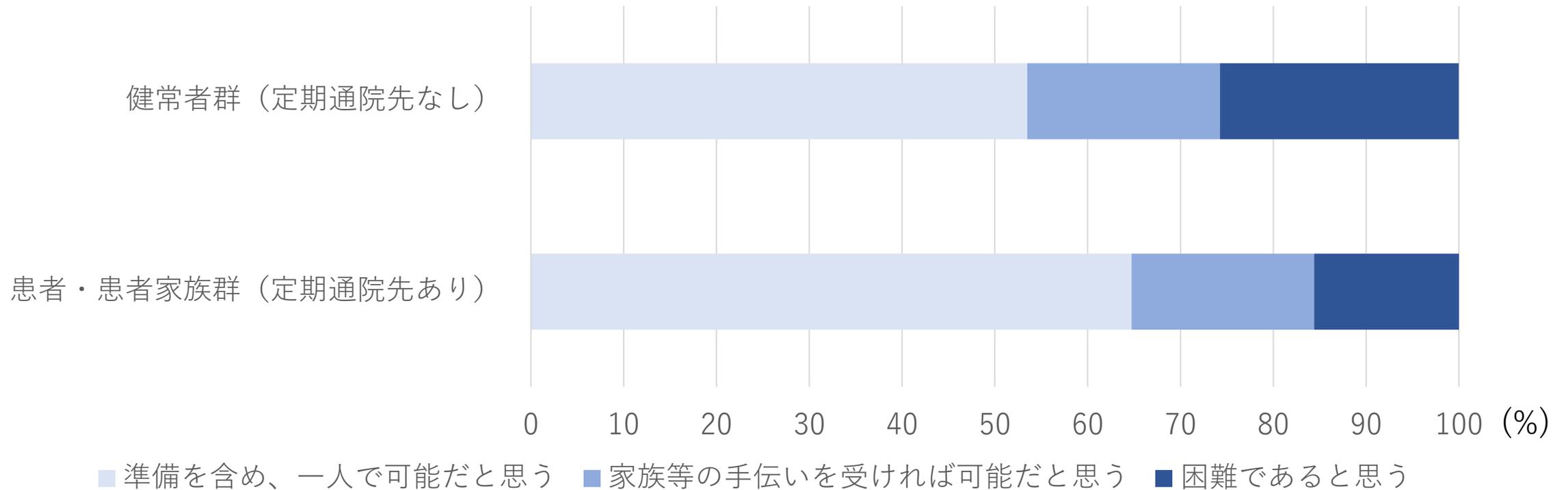
オンライン診療を利用してもよいと思うシチュエーション



患者・患者家族群においては、対面で診療を受けていた医師あるいは医療施設からオンライン診療の選択肢を提示された場合、半数以上がオンライン診療を利用してもよいと回答した。

結果 | オンライン診療経験なし群 | 4

自身の端末（PC/スマートフォン/タブレット等）を用いてのオンライン診療の受診が実行可能だと思うか



両群ともに50%以上は「準備を含め、一人で可能だと思う」を選択した。「家族等の手伝いを受ければ可能だと思う」も含めると、70%以上となるが、「困難であると思う」との回答も一定数いた。

オンライン診療と対面診療の比較

結果 | 通院手段に応じた許容性

許容可能という回答の割合 (%)

	週1回			2週に1回			月1回		
	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value
患者									
オンライン診療経験あり	60.8	63.5	0.09	64.7	67.5	0.07	79.0	78.4	0.62
オンライン診療経験なし	41.3	43.6	0.17	51.8	48.2	0.03	83.9	60.7	<0.01
健常者									
オンライン診療経験あり	50.7	63.9	<0.01	60.9	69.3	<0.01	79.0	79.2	0.90
オンライン診療経験なし	40.5	41.0	0.69	50.0	44.7	<0.01	68.8	53.8	<0.01

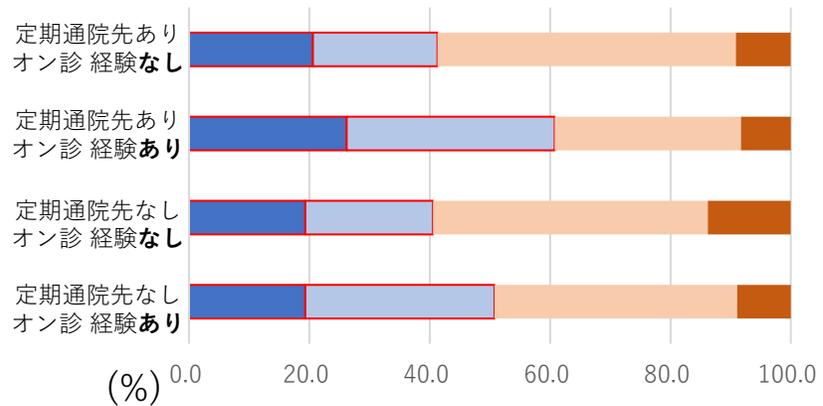
「全く問題なく許容可能である」「抵抗はあるが許容可能である」と回答した場合、許容可能と分類した。

オンライン診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合はオレンジ、対面診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合は緑でマークした。

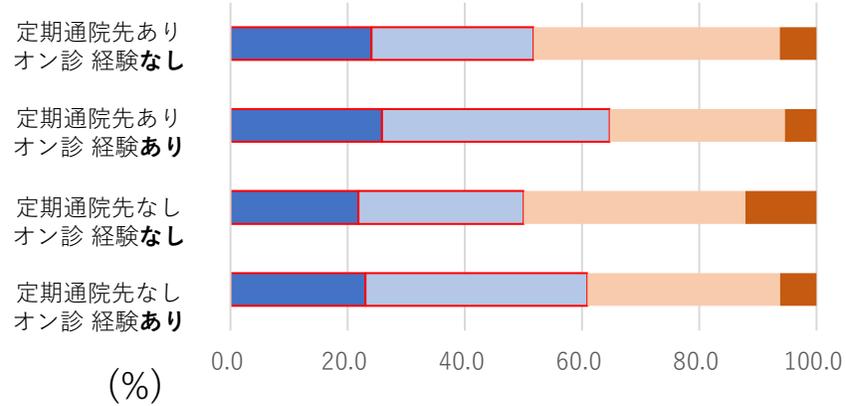
- ・ オンライン診療経験がある患者群
対面診療とオンライン診療で許容性に差はなかった。
- ・ オンライン診療経験がある健常者群
週1回・2週に1回の受診頻度において、オンライン診療の方が許容可能という回答割合は多かった。
- ・ オンライン診療経験がない患者群・健常者群
2週に1回・月1回の受診頻度において、対面診療の方が許容可能という回答割合が多かった。

結果 | 通院手段に応じた許容性 | 補足

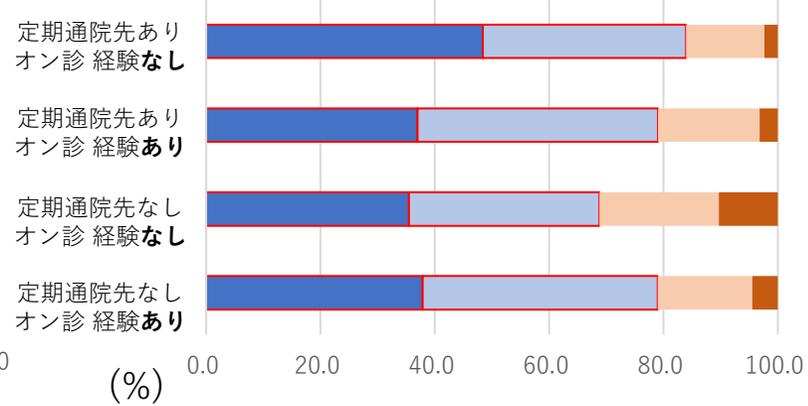
対面診療における週1回程度の受診



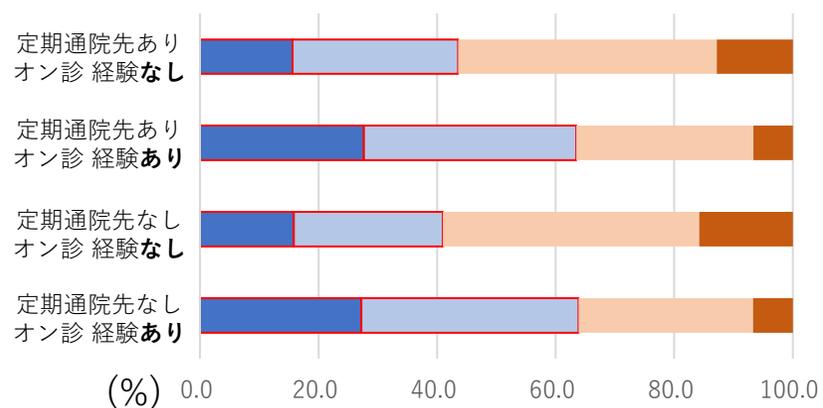
対面診療における2週に1回程度の受診



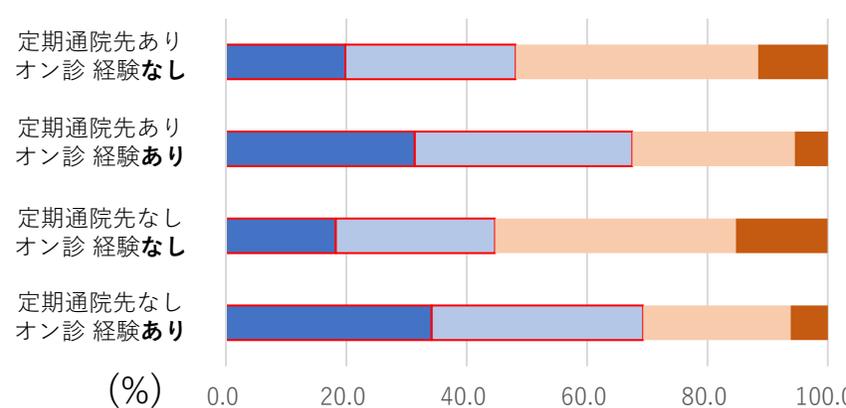
対面診療における月1回程度の受診



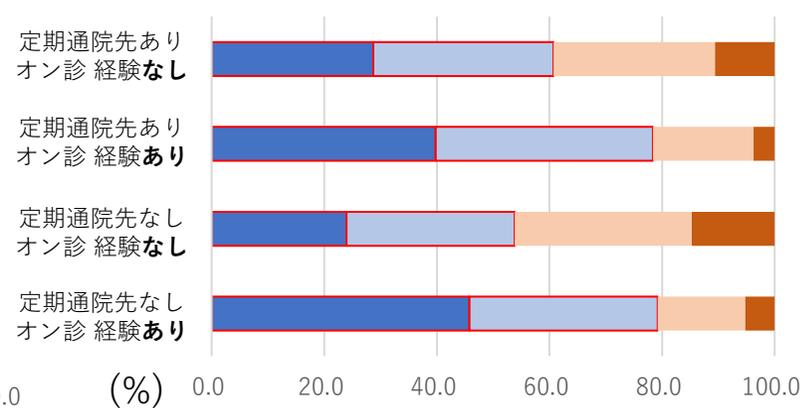
オンライン診療における週1回程度の受診



オンライン診療における2週に1回程度の受診



オンライン診療における月1回程度の受診



■ 全く問題なく許容可能である
 ■ 抵抗はあるが許容可能である
 ■ できれば避けたい
 ■ 絶対に許容できない

結果 | 通院手段に応じた許容性 | 年齢層別化

許容可能という回答の割合 (%)

	週1回			2週に1回			月1回		
	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value
患者									
オンライン診療経験あり									
60歳未満	62.6	64.8	0.21	65.4	69.0	0.03	77.5	78.7	0.43
60歳以上	52.5	57.6	0.17	61.8	60.9	0.81	86.1	76.9	<0.01
オンライン診療経験なし									
60歳未満	41.0	44.6	0.05	51.6	49.6	0.25	83.0	62.0	<0.01
60歳以上	42.6	39.3	0.41	52.5	42.2	0.01	88.0	55.4	<0.01
健常者									
オンライン診療経験あり									
60歳未満	51.7	65.3	<0.01	61.6	70.9	<0.01	78.8	80.8	0.35
60歳以上	44.0	54.0	0.20	56.0	58.0	0.78	80.0	68.0	0.08
オンライン診療経験なし									
60歳未満	38.7	40.4	0.15	48.2	44.3	<0.01	66.9	53.9	<0.01
60歳以上	54.5	45.5	0.02	64.3	47.8	<0.01	83.5	52.9	<0.01

「全く問題なく許容可能である」「抵抗はあるが許容可能である」と回答した場合、許容可能と分類した。

オンライン診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合はオレンジ、対面診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合は緑でマークした。

オンライン診療経験がない60歳以上では、ほぼ全てのパターンで対面診療の方が許容可能との回答が有意に多かった。また、月1回の受診では、オンライン診療の方が有意に許容可能という回答割合が高い群はなかった。

結果 | 通院手段に応じた許容性 | 近傍医療機関数による層別化

許容可能という回答の割合 (%)

	週1回			2週に1回			月1回		
	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value	対面	オンライン	p value
患者									
オンライン診療経験あり									
医療機関少ない	38.4	54.4	<0.01	47.2	60.8	0.01	74.4	76.0	0.73
医療機関多い	63.1	64.5	0.43	66.6	68.2	0.30	79.5	78.6	0.52
オンライン診療経験なし									
医療機関少ない	40.8	38.5	0.62	46.0	42.5	0.47	78.7	54.0	<0.01
医療機関多い	41.4	44.4	0.09	52.7	49.1	0.04	84.7	61.8	<0.01
健常者									
オンライン診療経験あり									
医療機関少ない	33.9	36.9	0.65	36.9	43.1	0.37	61.5	53.9	0.13
医療機関多い	54.0	69.0	<0.01	65.5	74.0	<0.01	82.3	84.1	0.43
オンライン診療経験なし									
医療機関少ない	24.7	28.7	0.04	31.0	29.6	0.50	41.6	35.7	<0.01
医療機関多い	45.8	45.1	0.59	56.4	49.8	<0.01	77.9	59.9	<0.01

「全く問題なく許容可能である」「抵抗はあるが許容可能である」と回答した場合、許容可能と分類した。

オンライン診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合はオレンジ、対面診療の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合は緑でマークした。

オンライン診療経験がある群では、オンライン診療の方が許容可能との回答が有意に多い通院頻度はあった。

オンライン診療経験がない群では、対面診療の方が許容可能との回答が有意に多い場合が多かったが、健常者群においては週1回の通院頻度ではオンライン診療の方が許容可能との回答が有意に多かった。

結果 | 通院に伴う負担

オンライン診療の方が各負担が小さいという回答の割合 (%)

	時間的負担	身体的負担	精神的負担	金銭的負担
患者				
オンライン診療経験あり	75.2	67.9	56.0	51.1
オンライン診療経験なし	72.5	67.1	39.2	36.1
健常者				
オンライン診療経験あり	76.0	76.7	62.4	42.6
オンライン診療経験なし	60.7	57.7	35.6	33.8

※オンライン診療経験なし群の場合、
オンライン診療受診を予想しての回答となる。
※回答割合が50%以上の場合、赤字で表記した。

オンライン診療の方が、時間的負担・身体的負担については小さいという回答が多かった。オンライン診療経験あり群においては、精神的負担が小さいという回答も50%以上を占めた。

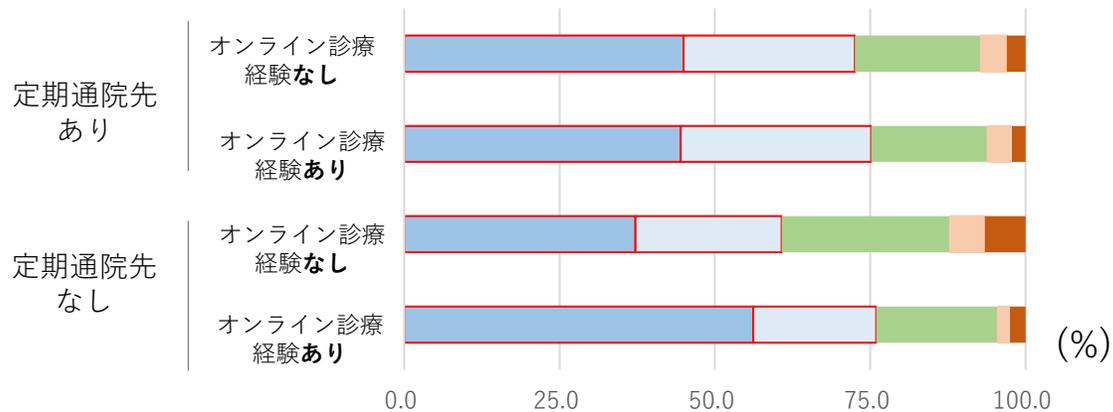
※オンライン診療経験の有無で比較した場合

	時間的負担			身体的負担			精神的負担			金銭的負担		
	経験あり	経験なし	p value									
患者	75.2	72.5	0.13	67.9	67.1	0.64	56.0	39.2	<0.01	51.1	36.1	<0.01
健常者	76.0	60.7	<0.01	76.7	57.7	<0.01	62.4	35.6	<0.01	42.6	33.8	<0.01

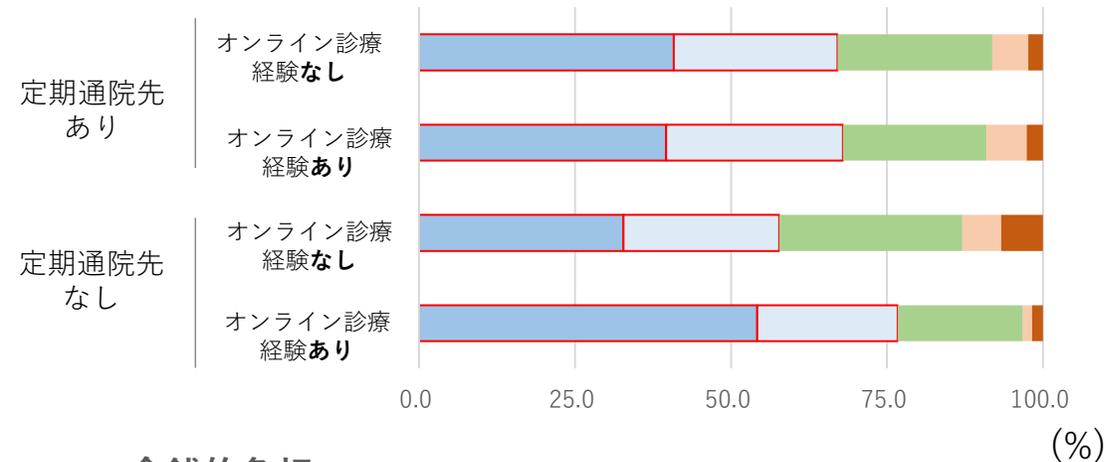
オンライン診療経験がある場合の方が、通院に伴って負担を感じている人が有意に多かった。

結果 | 通院に伴う負担 | 補足

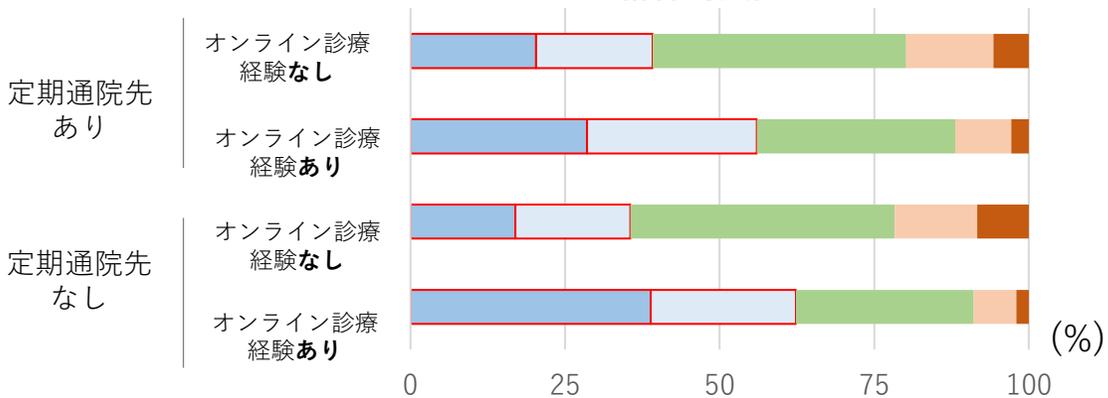
時間的負担



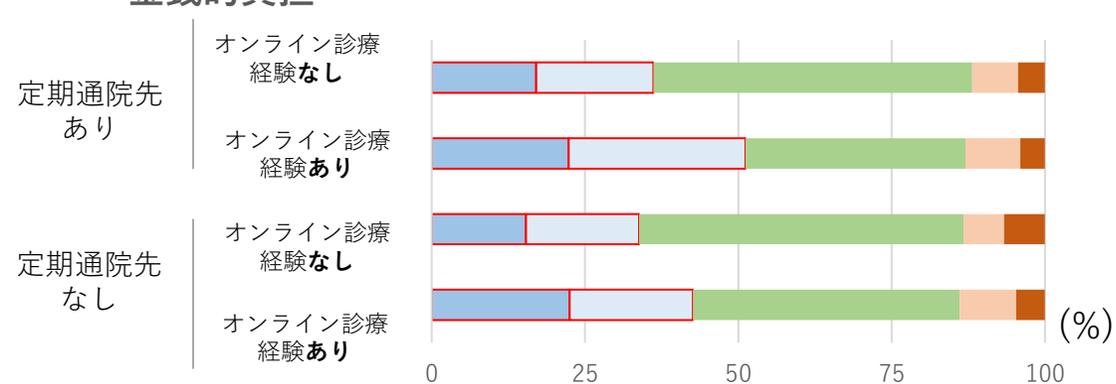
身体的負担



精神的負担



金銭的負担



■ オンライン診療の方が明らかに小さい
■ オンライン診療の方がやや小さい
■ 対面診療と同等である
■ オンライン診療の方がやや大きい
■ オンライン診療の方が明らかに大きい

■ オンライン診療の方が明らかに小さい
■ オンライン診療の方がやや小さい
■ 対面診療と同等である
■ オンライン診療の方がやや大きい
■ オンライン診療の方が明らかに大きい

■ 対面診療と同等である

結果 | 通院に伴う負担 | 年齢による層別化

オンライン診療の方が各負担が小さいという回答の割合 (%)

	時間的負担			身体的負担			精神的負担			金銭的負担		
	60歳未満	60歳以上	p value	60歳未満	60歳以上	p value	60歳未満	60歳以上	p value	60歳未満	60歳以上	p value
患者												
オンライン診療経験あり	75.2	74.8	0.89	66.6	74.0	0.03	56.2	55.0	0.74	51.6	49.2	0.50
オンライン診療経験なし	71.5	76.9	0.09	65.5	74.0	0.01	39.1	39.7	0.87	36.3	35.5	0.83
健常者												
オンライン診療経験あり	77.7	64.0	0.03	78.0	68.0	0.12	63.6	54.0	0.19	43.2	38.0	0.49
オンライン診療経験なし	59.3	72.2	<0.01	56.4	68.2	<0.01	34.9	40.8	0.07	33.1	39.6	0.04

「オンライン診療の方が明らかに小さい」「オンライン診療の方がやや小さい」と回答した割合。

60歳未満の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合はオレンジ、60歳以上の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合は緑でマークした。

60歳以上の方が、60歳未満よりも、オンライン診療の方が通院に伴う身体的負担が小さいとの回答が有意に多かった。

結果 | 通院に伴う負担 | 近傍の医療機関数による層別化

オンライン診療の方が各負担が小さいという回答の割合 (%)

	時間的負担			身体的負担			精神的負担			金銭的負担		
	医療機関		p value									
	少ない	多い		少ない	多い		少ない	多い		少ない	多い	
患者												
オンライン診療経験あり	67.2	76.0	0.03	64.0	68.3	0.33	52.0	56.4	0.34	47.2	51.6	0.35
オンライン診療経験なし	69.0	73.1	0.26	70.1	66.6	0.36	46.0	38.1	0.05	39.1	35.7	0.39
健常者												
オンライン診療経験あり	56.9	79.7	<0.01	58.5	80.2	<0.01	47.7	65.2	0.01	35.4	44.0	0.20
オンライン診療経験なし	39.4	67.9	<0.01	40.5	63.5	<0.01	31.4	37.0	0.02	29.9	35.1	0.03

「オンライン診療の方が明らかに小さい」「オンライン診療の方がやや小さい」と回答した割合。

近傍の医療機関数が多い群の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合はオレンジ、少ない群の方が許容可能という回答割合が有意に多かった場合は緑でマークした。

特に健常者では、近傍の医療機関が多い群の方が、オンライン診療の方が対面診療と比較して各種負担が小さいとの回答が有意に多かった。

患者・健常者の背景因子と
オンライン診療の経験
あるいは満足度との関連

結果 | 多変量解析

	オンライン診療の経験 調整オッズ比 (95%信頼区間)		オンライン診療への満足 調整オッズ比 (95%信頼区間)	
	患者 (n=2593)	健常者 (n=2630)	患者 (n=1312)	健常者 (n=404)
60歳超	1.09 (0.89-1.34)	1.07 (0.77-1.49)	1.04 (0.74-1.46)	0.54 (0.27-1.07)
男性	1.01 (0.86-1.18)	1.07 (0.86-1.32)	0.88 (0.67-1.16)	0.67 (0.40-1.13)
近傍の医療機関数 ^A	1.33(1.18-1.50)	1.43(1.22-1.68)	1.40(1.14-1.73)	1.77(1.23-2.54)
通院に伴う手間 ^B	1.48 (1.35-1.63)	1.57(1.38-1.78)	1.50(1.27-1.76)	1.77(1.31-2.40)

^A 順序変数 (1=近くに医療機関はあまり存在しない、2=近くに医療機関がそれなりの数存在する、3=近くに医療機関が数多く存在する)

^B 順序変数 (1=全く手間はかからない、2=あまり手間はかからない、3=やや手間がかかる、4=かなり手間がかかる)

患者においても健常者においても、①近傍の医療機関数が多い方が、また同時に②通院に伴う手間が大きいと感じている方が、オンライン診療を経験し、オンライン診療を受けた際にその内容に満足する傾向にあった。

オンライン診療の普及を阻害する要因

結果 | オンライン診療の普及を阻害する要因 全体の各項目の選択率

選択肢	定期通院先なし		定期通院先あり	
	経験あり (%)	経験なし (%)	経験あり (%)	経験なし (%)
A. オンライン診療では、医療機関側の事務的な手続きが増えてしまうため	10.6	11.2	14.9	10.2
B. オンライン診療では、患者側の手間が増えてしまうため	9.9	12.1	13.8	10.3
C. オンライン診療では、医療機関側の金銭的負担が大きいため	9.2	8.6	14.6	6.3
D. オンライン診療では、患者の金銭的負担が大きいため	11.6	9.9	11.3	9.1
E. オンライン診療のためのシステムや通信環境の構築が、医療機関にとって困難であるため	15.4	13.8	16.4	13.4
F. オンライン診療のためのアプリダウンロード・通信環境の構築が、患者にとって困難であるため	23.3	23.1	23.1	22.2
G. オンライン診療では、医師の診察内容に不安が残るため	31.7	31.7	22.7	32.8
H. オンラインよりも、対面の方が話しやすいため	27.7	26.6	20.8	30.8
I. オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため	31.2	32.3	30.5	39.7
J. オンライン診療に適した患者があまりいないため	14.6	11.6	12.0	10.3
K. オンライン診療による個人情報漏洩が必要であるため	12.4	13.2	14.3	11.9
L. オンライン診療という診療形態事態があまり知られていないため	19.6	19.8	20.0	17.3
M. オンライン診療という実施形態は知られているが、こういった場合にオンライン診療が適しているのか／希望してよいのかわからないため	28.2	27.4	27.0	27.9
N. オンライン診療という実施形態は知られているが、オンライン診療を実施している機関がどこかわからないため	23.3	26.1	24.9	22.6
O. 対面診療の満足度が高く、オンライン診療を必要としている人が少ないため	17.6	16.7	17.8	17.7
P. 対面診療の満足度に関わらず、現状維持を望む心理が働くため	13.9	16.1	16.2	17.3

注：本設問では、オンライン診療の普及を阻害する要因として、大きいと思うものを、16個の選択肢から3つ選択可能とした。選択肢の表示順は毎回シャッフルした。

結果 | オンライン診療の普及を阻害する要因 患者および患者家族群におけるTOP3

オンライン診療の経験あり群	選択率 (%)	オンライン診療の経験なし群	選択率 (%)
I. オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため	30.5	I. オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため	39.7
M. オンライン診療という実施形態は知られているた、どういった場合にオンライン診療が適しているのか／希望してよいのかわからないため	27.0	G. オンライン診療では、医師の診察内容に不安が残るため	32.8
N. オンライン診療という実施形態は知られているが、オンライン診療を実施している機関がどこかわからないため	24.9	H. オンラインよりも、対面の方が話しやすいため	30.8

オンライン診療の経験の有無によらず、オンライン診療の普及を阻害する要因として「オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため」が最も多く選択されていた。

結果 | オンライン診療の普及を阻害する要因 健常者群におけるTOP3

オンライン診療の経験あり群	選択率 (%)	オンライン診療の経験なし群	選択率 (%)
G. オンライン診療では、医師の診察内容に不安が残るため	31.7	I. オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため	32.3
I. オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため	31.2	G. オンライン診療では、医師の診察内容に不安が残るため	31.7
M. オンライン診療という実施形態は知られているた、どういった場合にオンライン診療が適しているのか／希望してよいのかわからないため	28.2	M. オンライン診療という実施形態は知られているた、どういった場合にオンライン診療が適しているのか／希望してよいのかわからないため	27.4

オンライン診療の経験の有無によらず、オンライン診療の普及を阻害する要因として「オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため」「オンライン診療では、医師の診察内容に不安が残るため」が多く選択されていた。

結果要約

- オンライン診療経験があったのは全体の5%のみであった。
- オンライン診療を受けるきっかけとして、**対面で診療を受けていた医師あるいは医療施設からのオンライン診療という選択肢の提示が有用**である可能性がある。
- オンライン診療を経験している場合、患者群・健常者群の両方において、約80%の回答者がオンライン診療に満足していた。近傍の医療機関が多いほど、また通院には手間がかかると感じているほど、オンライン診療を経験しやすく、同時にオンライン診療の内容に満足しやすいということが示唆された。
- オンライン診療の普及を阻害する因子として、「オンライン診療では、検査や処置が必要になった場合に結局通院が必要になってしまうため」が最も選択されており、**オンライン診療普及のためには検査や処置を別途受けられる設定や、検査や処置を代替する手段の開発が必要**である可能性がある。
- オンライン診療に適した病態・診療機関についての、**一般向け周知・啓発も必要**と考えられる。

自由回答欄へのコメント

結果 | 自由記載欄 オンライン診療経験のある患者群

- 「便利」という声多数。
- 患者が分散するので**病院の混雑は緩和**されると思う。
- コロナが5類となりオンライン診療をやめた医療機関がある。継続させてほしい。
- **対面で話すのが苦手**、オンライン診療の方が簡潔に伝えられる。
- 基本的に**対面患者がいる場合は後回しにされる**ので、スピード感としては物足りなさを感じる。
- **医療従事者がきちんと理解できていない**。
- オンライン診療では一週間分しか薬を出せないと言われがっかり。
- **家の中を見られる**等気をつかう。
- オンライン診療が知られていないので、**CMやSNSで広告**をだすと良い。
- **規模の大きい総合病院**で率先して導入してほしい。
- **国や自治体**がオンライン診療を普及させるために援助や支援をしてほしい。
- どの医療機関でも同じサービスが受けられる体制を整え、**オンライン希望の場合は常にそうできるように**してほしい。
- 総合病院と近くのクリニックの間のオンライン診療など**いろいろな形態**のオンライン診療を進めてほしい。
- オンライン診療が可能な症状とそうでない**症状と分かりやすく明示**されている方が利用しやすくなると思う。

色分け

- 好意的なご意見
- 否定的なご意見
- 改善点

結果 | 自由記載欄 オンライン診療経験のない患者群

- 会話だけで診療が成立する場合、通院が必要かどうかの判断等ならオンライン診療が有効。
- 「便利」という声多数
 - 移動時間・費用・待ち時間がないのは便利、特に体調が悪い時、天候が悪い時、子どもがいる時。
- **すぐに病院へ行くべきか**、カメラ越しに診てもらえればお金時間労力の節約になる。
- **相性の良い先生**が遠方に異動等された場合は、離れていても診察してもらえるメリットがある。
- **他人の目線**を気にしなくて良い。
- **心音や口内**を診てもらえないとなると利用範囲はかなり狭まると思う。
- 症状をうまく言葉で伝えられない時や**自覚症状がない時**、対面だと触診等で病巣を発見してくれそう。
- **部屋の映り込み**は嫌。 • **何となく不安**。直接話した方が安心。
- オンライン診療できる機関を調べるのが大変。
- 医療機関側から選択を迫られれば迷わずオンラインを選ぶが、**患者側からは提案しにくい**。
- **医療機関の紹介機関**があるとよい。
- オンライン診療が**向いている向いてないの判断**は患者側では厳しいので、その簡便な提示方法の構築。
- **実際の様子**が見られる動画広告等あれば良い。
- 病院以外の業種でもオンライン化はすすんでいる。これから10年間での頑張りに期待。
- 医療機関毎に別々の**プラットフォーム**になっており、**統一**したものであって欲しい。

色分け
• 好意的なご意見
• 否定的なご意見
• 改善点

結果 | 自由記載欄 オンライン診療経験のある健常者群

- 「便利」という声多数
 - 仕事終わりに行ける医療機関が少なく、夜遅くまで受診でき、薬も宅配で送ってくれ、便利。
- 処方箋が必要な為に医療機関を利用する立場としてはとても合理的。
- 空き時間や仕事中でも受診できることは便利。
- オンラインだと問診がメインになるので、誤診に繋がらないか不安。
- 医者に急患があれば待たされるので意味がない。
- 吸入や点滴などができず不満だった。
- どうしても直接お話を聞きたい。
- 医療機関側が消極的だと思うので患者側からは頼みにくい雰囲気だと思う。
- オンライン診療を実施している病院がもっと分かりやすくなれば良いと思う。
- 対面と比べるとこちらが質問出来ないくらい淡々としている医師もいるのでその辺りの改善を希望。
- 医療機関やネットでもっと広告すればネット使える人達の利用が増える気がする。
- 具体的に診療代がいくらかわかるシステムがあると良い。
- 場合によっては自宅への訪問診療をしてもらえれば安心。
- オンライン診療普及のため公的機関からのアナウンスをもっとやるべき。

色分け

- 好意的なご意見
- 否定的なご意見
- 改善点

結果 | 自由記載欄

オンライン診療経験のない健常者群 | 1

色分け

- ・好意的なご意見
- ・否定的なご意見
- ・改善点

- ・「便利」という声多数
 - ・仕事が忙しくて病院が空いている時間に休めないという方には、便利な診療方法だと思う。
 - ・子供のぐずりがあっても、オンラインなら待ち時間も気にしなくてもよい。
- ・プライバシーが守られて良い。
- ・忙しい現代社会の若者にとってはとても好ましい。
- ・病院の診察時間外の診察が可能になれば**救急車の出動も減る**かも。
- ・高齢者には**聴き取りが困難**な患者さんが増え、家族などの**補佐役が必要**なことも多いから、それなら通院させた方が楽だと感じる場合も多いと思う。
- ・オンラインでは**ふとした仕草**で出る何かに気付いてもらえない。自分で気付いていない仕草が、病気の何かに結び付く可能性はあると思っている。
- ・どの医療機関がどのようなオンライン診療を提供しているかが分かりづらい。
- ・高齢者など診察よりも**病院に行くこと自体が目的**となっている人の生活状態が変わるのではないかと思う。
- ・アプリで携帯の容量が一杯になり写真や動画が撮れなくなる。

結果 | 自由記載欄

オンライン診療経験のない健常者群 | 2

色分け

- ・好意的なご意見
- ・否定的なご意見
- ・改善点

- ・飲食店なみの**使いやすいアプリ**を作り、必要な患者さんへ**タブレットを貸し出す**等の工夫も必要。
- ・**市役所等の公的機関**も推進サポートしてほしい。
- ・オンライン診療が可能な医療機関を**まとめたサイトやアプリ**があれば便利。オンライン診療の後に通院の必要が生じた時のことも考えると、地域や診療目的別で検索機能があったり、評価や口コミも見られるとより便利であると思う。
- ・かかりつけ医で**紹介状を貰った場合**、それが遠くの医療機関ならばまずオンラインで面談できれば楽。
- ・**区役所や市役所、地域ケアセンターなどにパソコン環境**を置いてそこから繋がられる様にしてもいいと思う。通院のみの手段は時代に合わない。
- ・対面でもPCだけを見て診察する医師もいるとガッカリし二度行きたくないので、オンラインのほうがきちんと見てもらえるのかもと期待もあります。
- ・耳鼻科であれば点鼻薬や鼻炎・鼻水を抑える薬、皮膚科であれば塗り薬、精神科であれば抗不安剤や睡眠導入剤のように、**処方箋が毎回ほぼ同じものに関しては明らかにオンラインのほうがメリットが大きい**。直接見る必要があったり専門的な施術や器具・機械が不要な状況であればオンラインで十分足ると考えられる。ただボリューム層である高齢者のほとんどは様々な理由からオンライン診療を利用しないと思うので採算性の問題からオンライン診療が広く受け入れられるのはかなり先になるだろう

謝辞

- 本研究は、厚生労働行政推進調査事業費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業JPMH23IA2001および一般社団法人 日本医学学会連合の助成を受けたものです。